

三次市立十日市小・中学校改築工事基本設計

令和 8 年 1 月



1 多目的室兼タウンスタジオについて

- ・多目的室兼タウンスタジオは、1階中央に配置し、様々な学びやイベント、地域との交流を促します。
- ・各種交流会や発表会、説明会等に対応できるよう、約200人を収容可能な空間を確保します。
- ・可動壁により空間を柔軟に利用でき、会議・研修・学習活動など多様な用途に対応します。

2 職員室等について

- ・職員室は、小中学校の執務スペースを緩やかに分け、ゆとりを持たせて一体化します。
- ・児童生徒や来客の視線や往来から離れ、安心して休憩できるよう、更衣室内に休憩室を配置します。

3 保健室・相談室・通級教室について

- ・保健室の近くに相談室、通級教室を配置し、見守る環境を整えます。
- ・体調不良と心理面の不調が重なりやすい児童生徒に対し、状況に応じて保健対応と相談対応を切れ目なく連携できるよう、保健室と相談室は行き来を可能とします。
- ・相談室は、外からも直接出入りできる動線を確保し、児童生徒の心理的負担を軽減できるよう配慮します。
- ・通級教室には、西側通用口からも出入りを可能とすることで、配慮が必要な児童生徒に対応します。

4 特別教室について

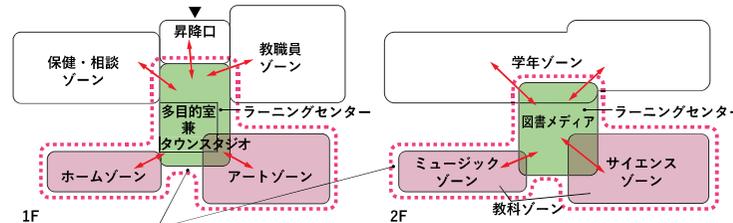
- ・特別教室は、南棟に集約し、普通教室と明確に分離します。
- ・特別教室の各教科のまとまりを教科ゾーンと位置づけ、小中学校の枠組みを超えた多彩な学びを育む環境を整えます。
- ・各教科ゾーンの廊下に展示壁を設け、ギャラリーとすることで、校内を歩くだけで学習履歴や異学年の情報に触れることができる環境とします。
- ・音楽室は、周辺住宅への音漏れを考慮し、遮音性の高い壁や開口部とすることで近隣環境に配慮します。

5 共用部について

- ・昇降口は、施設一体型小中一貫校のシンボルとして、1つとします。靴箱間にゆとりをもたせると共に、玄関入口を分けることにより、小中学生の体格差を考慮します。
- ・小学校用と中学校用の各昇降口近くにそれぞれ階段を設けることで、体格差に配慮しつつ混雑を緩和し、安全で円滑な移動ができる動線を確保します。
- ・放送室は、児童生徒の放送活動を教職員が見守り、支援ができるよう、職員室に近接して配置します。
- ・多目的室に近接して郷土ホールや展示スペースからなる郷土ギャラリーを配置し、歴史・文化を体験的に学べる場とします。

6 学年園、遊歩道等について

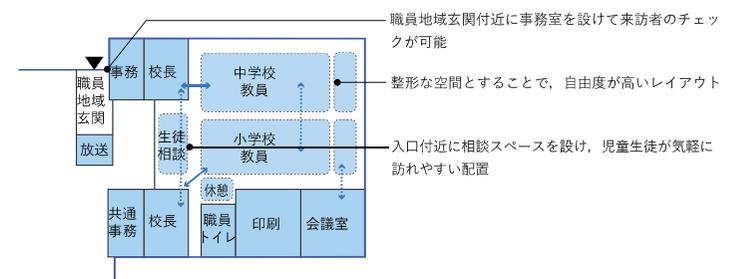
- ・学年園は、発達段階に応じた栽培活動を通して、食育や環境への理解を育む学習の場として学年ごとに配置します。
- ・校舎やグラウンド周りは、既存植生や記念碑等を再編した懐かしくて新しい遊歩道を整備します。



1F 多目的室兼タウンスタジオ
2F 学年ゾーン

タウンcommons
地域開放可能なまとまりをタウンcommonsとし、地域開放の度合いを選択できるようにセキュリティラインを設ける

タウンcommonsの考え方のイメージ



小中の連携がとれやすい職員室のレイアウトイメージ

1 普通教室等について

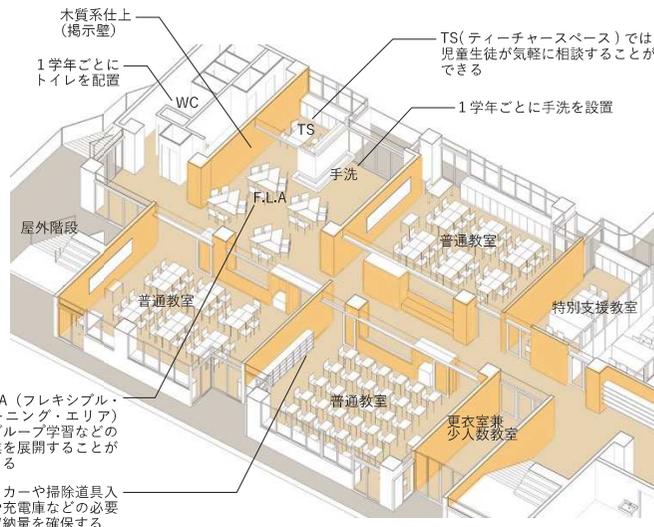
- 普通教室は、北棟の2階から4階に配置し、学年配置の変更などに柔軟に対応しやすくするため、2、3、4階の教室は同じ配置とします。
- 充電庫やロッカー、掃除道具入れ等の収納は各教室の周囲の壁を活用し、ゆとりを持たせた空間とします。
- 学年ごとのまとまり(クラスセット)で配置し、学年運営や学年行事の一体的な展開がしやすく、生活動線を簡潔にして移動や見守りの効率化を図ります。
- 教室の拡張領域となるF.L.A(フレキシブルラーニングエリア)を学年ごとに設け、グループ学習など多彩な学びができる環境とします。
- F.L.Aに隣接させてTS(ティーチャースペース)を配置し、児童生徒が気軽に相談できる環境を確保します。また、教材用棚を設け、教室への備品運搬が容易な環境とします。
- 多様性に配慮して各学年に一か所ずつ更衣室兼少人数教室を設けます。更衣室として使用しないときには、少人数学習や相談等で使用できる空間とします。
- トイレは、学年ごとに配置することで移動距離を短縮して授業間の混雑を緩和するとともに、低学年から安心して利用できる環境とします。また、各階に多目的トイレを配置し、バリアフリーに配慮します。

2 特別支援教室について

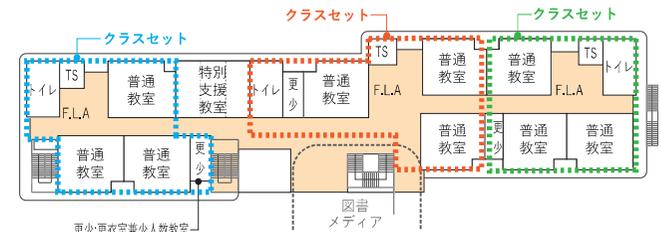
- 特別支援教室は、児童生徒同士の交流や協働的な学びを考慮し各階に配置することで、インクルーシブな環境を大切にします。
- 教室内に間仕切壁を設けて空間を細分化できる仕様とし、個別指導やクールダウン等を、状況に応じて切り替えを可能とします。また、視線や音の影響を抑えて落ち着いた学習環境を確保し、児童生徒の特性に応じた柔軟な支援が行いやすい環境を整えます。
- エレベーターやトイレへのアクセスが良い位置とすることで移動距離を短縮し、安全で負担が少ない配置とします。

3 図書メディアについて

- 学校の中心に配置された図書メディアが交流拠点となり、児童生徒の学びを促進します。
- 単に読書や本の貸し借りをするだけでなく、プレゼンテーションや調べ学習、情報を活用して学ぶことができる空間とします。
- 閲覧スペースにはカウンター席やテーブル席など多彩な居場所を設けます。
- 児童生徒が本を身近に感じられるよう、サテライト図書を3、4階に設けます。



クラスセットのまとまりのイメージ



各階のクラスセットのイメージ

1 災害対策について

- ・東西の屋外階段や屋内階段によって、屋上までの避難を可能とします。
- ・教室から屋外階段までつながるバルコニーにより行き止まりがない避難動線を確保します。
- ・備蓄庫は、浸水等の災害時にも備蓄品を守りやすく、避難時に必要な物資を安全に確保でき、取り出しや運搬がしやすいように3、4階のエレベーターの近くに配置します。
- ・浸水被害を軽減するため、キュービクルや空調などの機械設備は屋上に配置します。
- ・災害に備え、太陽光発電システム等による予備電源や高架水槽を設置します。

2 環境配慮について

- ・シックハウス対策に十分配慮し、学校環境衛生基準に基づき適切に換気ができる仕様とします。
- ・自然エネルギーの有効活用として太陽光発電システムを設置します。
- ・部分的に昼光センサーや人感センサーを併用するとともに、節水型機器を積極的に導入します。
- ・各室にはバルコニーや庇を設け、夏季は高い日射を遮って室温上昇を抑え、冬季は低い日射を室内に取り込めるようにします。これにより、冷暖房負荷の低減と快適性の向上を図り、年間を通じて省エネルギーを図ります。

■行き止まりがない避難動線

教室から屋外階段までつながるバルコニーによる避難経路を確保

■明確なセキュリティライン

学年ゾーンと地域開放エリアを明確に区分けするセキュリティライン

⋯：地域開放時のセキュリティライン

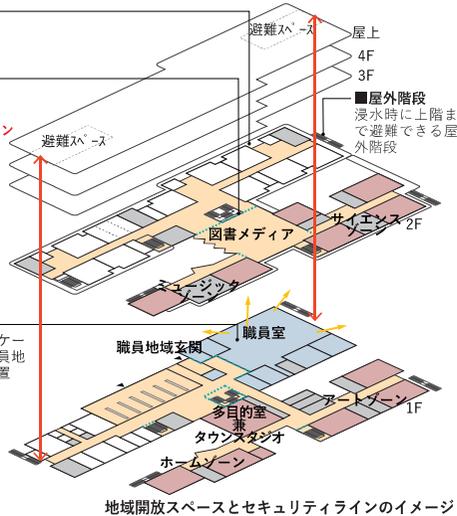
■見通しの良い職員室

児童生徒・地域住民とのコミュニケーションが図りやすく、昇降口や職員地域交関、グラウンドを見通せる配置

■地域開放可能なタウン commons

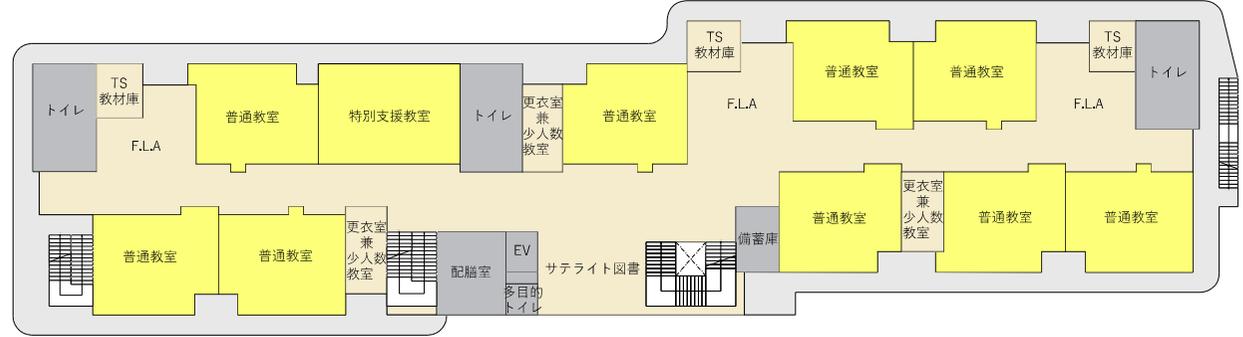
タウン commons として地域開放できる空間

■：地域開放可能スペース

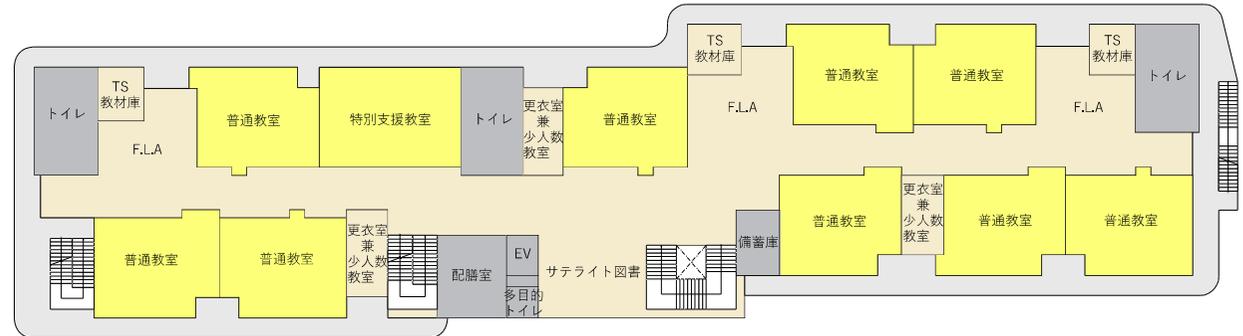


地域開放スペースとセキュリティラインのイメージ

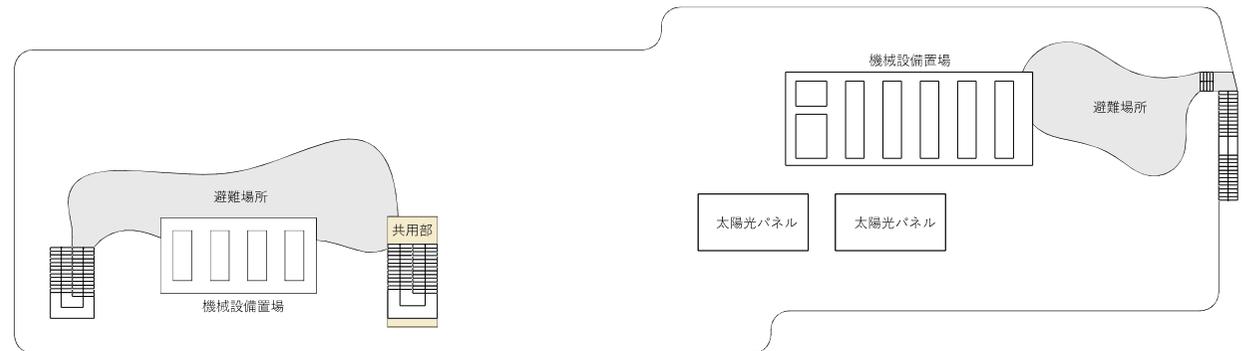
3階



4階



屋上





グラウンドから見た北棟のイメージ



渡り廊下と校舎のイメージ



西側の中庭のイメージ



東側の中庭のイメージ



昇降口のイメージ



職員室前のイメージ



多目的室から中庭を見たイメージ



図工室前から見た展示スペースのイメージ



2階小プレゼンスペースのイメージ



3階サテライト図書から図書メディアを見たイメージ



F.L.AとTSのイメージ



教室のイメージ

